

# 国語科学習指導案

福山市立駅家西小学校 岸 理恵

1 日 時 令和4年11月9日(水) 第1校時

2 学 年 第2学年1組 男子14名 女子13名 計27名

3 単元名 せつめいのしかたに気をつけて読み、それをいかして書こう  
「馬のおもちゃの作り方」「おもちゃの作り方をせつめいしよう」  
(光村図書 「こくご二下 赤とんぼ」)

## 4 単元について

### (1) 単元観

本単元は、小学校学習指導要領(平成29年告示)国語第1学年及び第2学年の〔思考力、判断力、表現力等〕「B 書くこと」(1)の「イ 自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。」、 「C 読むこと」(1)の「ア 時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えること」を受けて設定している。

「事柄の順序に沿って簡単な構成を考える」力を育成するには、本教材から、手順を示す文章の書き方を学ぶ必要がある。また、児童が説明書を書く際に必要なポイントである手順に沿って説明することや、手順を表す言葉に気付いたり、手順に沿って見出しや写真が提示されているということに気付いたりすることができるようにしていくことが大切である。

本単元は「馬のおもちゃの作り方」(読むこと)と、「おもちゃの作り方をせつめいしよう」(書くこと)の二つの教材文で構成されている。「馬のおもちゃの作り方」は、〈前書き〉・〈材料と道具〉・〈作り方〉・〈楽しみ方〉の四つの部分で構成されている。また、文章を構成するまともにも、〈作り方〉の手順も、分かりやすく説明するために順序を意識して書かれている。そのため、児童がまともを意識して文章を書く力や、順序を表す言葉を意識して文章を書く力を養うために適している教材文と考えられる。「おもちゃの作り方をせつめいしよう」(書くこと)では、「馬のおもちゃの作り方」で学んだ、分かりやすい説明の仕方を生かして、おもちゃの作り方の説明書を書くことで、理解の定着を図ることができる。

### (2) 児童観

本学級の児童は、説明的な文章としては、これまでに「たんぼぼのちえ」や「どうぶつ園のじゅうい」の学習をしている。「たんぼぼのちえ」では、時間の順序や理由を表す言葉に着目し、様子とその理由を考えながら説明的な文章を読むことを学んだ。また、「どうぶつ園のじゅうい」では、時間的な順序を考えながら内容の大体を読み取り、自分の知識や生活経験と教材文の内容を比べながら読むことを学んだ。しかし、時間的な順序や事柄の順序に注目して文章の構成を捉えながら読むことに課題がある。また、順序を表す言葉を知っていても、自分が文章を書く際には用いることが難しい児童もいる。その要因として、時間的な順序を表す言葉をどのような文章を書く時に使うのか、どのように使うのかの理解ができていないためだと考える。

### (3) 指導観

説明文を読む活動では、実際におもちゃを作り、児童がおもちゃの説明書を書く活動を通して、説明の工夫について考えられるようにする。〈作り方〉をわかりやすく書くためには、段落の接続語や、道具の数や長さなどの具体的な表現が重要となる。そのため、単元の始めに、児童が実際に馬のおもちゃを作ることで、文章と児童自身の体験を結びつけ、表現の工夫に気付けるようにしたい。また、「馬のおもちゃの作り方」を読む前に、学習に入る前に児童が書いたおもちゃの説明書を読み比べることで、自分の文章に足りない工夫を補えるようにしたい。見つけた説明の工夫は、児童の言葉でまとめることで、書く活動に生かせると考える。

指導に当たっては、次の3点の手立てを講じる。

- ①生活科の学習と関連させ、自分の作ったおもちゃの作り方を説明する文章を書き、1年生に紹介することで学習意欲を高める。
- ②時間を表す言葉を意識しながら文章を読む力を身に付けられるようにする。
- ③友達と書いた説明書を読み合い、実際に作ることで気付いた、文章表現で分かりにくい部分を修正したり、良い部分を自分の文章に取り入れたりする。

## 5 単元の目標

- ・事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。  
〔知識及び技能〕 (2) ア
- ・事柄の順序に沿って簡単な構成を考えることができる。  
〔思考力、判断力、表現力等〕 B (1) ア
- ・事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えることができる。  
〔思考力、判断力、表現力等〕 C (1) ア
- ・言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。  
「学びに向かう力、人間性等」

## 6 単元の評価規準

おもちゃの作り方を説明した文章を読み、1年生に紹介したいおもちゃの作り方を説明する文章を書くことを通した指導【言語活動例 B (2) ア及びC (2) ア】		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。 (2) ア	・「書くこと」において、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えている。 (B (1) イ) ・「読むこと」において、事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えている。 (C (1) ア)	・事柄の順序に沿って粘り強く構成を考え、学習課題に沿っておもちゃの作り方を説明する文章を書こうとしている。

### 〈評価の具体及び手立て〉

	評価規準【「おおむね満足できる」状況 (B)】	「努力を要する」状況 (C) と判断した児童への指導の手立て
思考・判断・表現	<p>「書くこと」において、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えている。</p>	<p>児童の作成したおもちゃの作り方を説明する文章例 (B)</p> <p>紙コップマラカスの作り方</p> <p>紙コップとストローをつかった、マラカスの作り方をせつめいします。 (ざいりようとどうぐ)</p> <p>・紙コップ 二つ ・ストロー 二〜三本 ・おり紙 ・ビニールテープ</p> <p>〔作り方〕 まず、おり紙を手で小さくちぎります。ストローもはさみで細かく切っておきます。つぎに、細かく切ったストローを紙コップの中に入れます。 そして、もう一つの紙コップを上にかぶせ、つなぎぶぶんをビニールテープでしっかりとめます。 さいごに、小さくちぎったおり紙を紙コップにはって、かざりつけをすとかんせいです。</p> <p>〈楽しみ方〉 マラカスのように、上下にふって音を出して楽しめます。また、紙コップの中に、ストローだけでなく、あずきやモールを入れるといろいろな音が楽しめます。</p>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・あらかじめ撮っておいたおもちゃ作りの際の写真を見せながら、どのような表現をすると良いか一緒に考える。</li> <li>・本や教科書の説明の仕方を一緒に確かめ、どのように書くと良いか考えられるようにする。</li> <li>・内容のまとめ、 「まず」、 「次に」、 「そして」、 「さいごに」 の欄を設けたワークシートを用意し、内容のまとめや作り方の順序を意識しながら書けるようにする。</li> </ul>

7 指導と評価の計画（全12時間）

次	時	学 習 内 容	評 価			
			知	思	主	評価規準・評価方法等
0	0	生活科「おもちゃをつくってみよう」にて、おもちゃを作成する。				
一	1	1年生に「おもちゃの作り方をせつめいしよう」という学習課題を設定する。				
	2	生活科で作ったおもちゃの作り方の説明書を書いてみる。（ここでは、説明文を書くことができなくてもよいこととする）				
	3	教材文を読みながら動くおもちゃを作り、作り方を読み手に伝えるポイントを確認する。				
	4	馬のおもちゃを作った経験を想起しながら、分かりやすかったところや何度も読み返したりしたところを確認する。				
	⑤ 本時	「馬のおもちゃの作り方」を読んで、筆者の説明の工夫を見つける。		○		【思考・判断・表現】 「読むこと」において、事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えている。 (発言・ノート)
	6	「馬のおもちゃの作り方」と2時間目に書いた説明書を読み比べる。 自分が紹介するおもちゃにも使えそうな説明の工夫を見つける。				
二	7	2時間目に書いた説明書を「読む」で学習したことを生かして書き直す。	○			【知識・技能】 事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。 (ワークシート)
	8 9 10	友達の書いたおもちゃの作り方の説明書を読んで、分かりにくいところや、良いところを伝え合う。				
	11 12	友達のアドバイスを受けて、より分かりやすい説明書になるように修正する。		○	○	【思考・判断・表現】 「書くこと」において、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えている。 (ワークシート) 【主体的に学習に取り組む態度】 事柄の順序に沿って粘り強く構成を考え、学習課題に沿っておもちゃの作り方を説明する文章を書こうとしている。 (ワークシート・行動観察)

## 8 本時の学習

### (1) 本時の目標

事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えることができる。

### (2) 学習の展開

学習活動	◇指導上の留意点 ●「努力を要する」状況と判断した児童への指導の手立て	評価規準と評価方法
<p>1 本時の見通しをもつ。</p> <p>①前時までの学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「馬のおもちゃの作り方」はいくつのまとまりに分けられていたか振り返る。</li> </ul> <p>②本時の目標を理解する。</p>	<p>◇前時に使用したスライドを確認しなら説明をする。</p> <p>◇作り方の中には、「馬のおもちゃの作り方」を説明するうえでたくさんの工夫の秘密が隠されていることを児童に伝え、意欲を高められるようにする。</p>	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">                     せつめいのしかたのひみつを見つけよう。                 </div>		
<p>2 説明の仕方の工夫を見つける。</p> <p>① 順序を表す言葉や写真が入っていない文章を読む。</p> <p>② 教材文を読み、説明の仕方の工夫を見つける。</p> <p>③ 9枚の写真の中で、どの写真が一番大切か考える。 【ロイロノートを使用する】</p>	<p>◇順序を表す言葉と写真が入っていない文を比べて、相手に伝わりにくいことに気付けるようにする。</p> <p>◇順序を表す言葉・写真が説明をするうえで重要な役割であることに気付けるようにする。</p> <p>●順序を表す言葉と写真が入ってない文章をもう一度読み直し、違いを見つけられるように声掛けをする。</p> <p>◇写真が文章だけでは伝わらない説明を補っていることに気付けるようにする。</p> <p>◇自分が選んだ写真がなぜ一番大切なのか理由も言えるようにする。</p> <p>●ロイロノートでみんなの考えを共有しながら進める。</p>	<p>「読むこと」において、事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えている。 (発言・ノート)</p>
<p>3 学習内容の振り返りをする。</p>	<p>◇今日の学習で分かったことを自分の言葉でまとめる。</p> <p>●使ってほしい言葉を提示し、その言葉を使いながら自分で振り返りを書くようにする。</p>	
<div style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p>児童の振り返りの例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・せつめいするときは、「まず」「つぎに」「それから」「さいごに」じゅんじょをあらわすことばをつかう。</li> <li>・しゃしんをつかうとせつめいがわかりやすくなる。</li> <li>・はじめになにを作るかたえてからせつめいをする。</li> <li>・「何センチメートル」など、長さをつかうと、あいてにつたわりやすい。</li> </ul> <p>〈使ってほしい言葉〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・順序を表す言葉 「まず」「つぎに」「それから」「さいごに」</li> <li>・写真</li> <li>・長さを表す言葉</li> </ul> </div>		

(3) 板書計画

ふりかえり

おもちゃの 作製過程 ⑤	おもちゃの 作製過程 ②	おもちゃの 完成形
おもちゃの 作製過程 ⑥	おもちゃの 作製過程 ③	材料と 道具
おもちゃの 楽しみ方	おもちゃの 作製過程 ④	おもちゃの 作製過程 ①

● 九まいのしやしんの中で、一番大切なものは？

☆ せつめいするときには

- ・ しやしんを入れる
- ・ 「まず」「つぎに」「そして」「さいごに」「

● 二つの文しやうをくらべて

- ・ しやしんがないと分かりにくい。
- ・ 「まず」「つぎに」ということばがない。
- ・ 作るじゆんばんが分からない。

教材文中に  
用いられている写真

馬のおもちゃの作り方

みやもと えつよし

文しやうの組み立て

前書き

ざいりやうとどうぐ

作り方

楽しみ方

⑥ せつめいのしかたのひみつを見つけよう。

〈本単元で用いたワークシート〉

楽しみ方	さいごに	そして	つぎに	まず	ざいりやうと どうぐ	まえがき

## 9 指導上の工夫

「馬のおもちゃの作り方」の学習の手立てとして、以下の三つのことを行った。

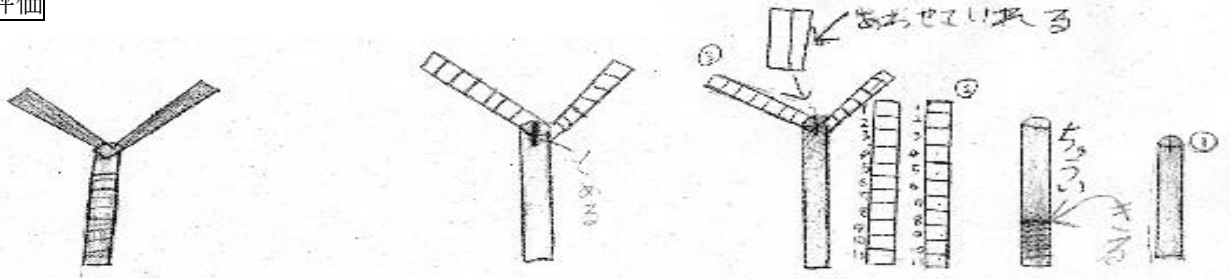
一つ目は、生活科の学習と関連させ、自分の作ったおもちゃの作り方の説明書を書き、1年生に紹介することで学習意欲を高めた。「1年生に楽しんでもらいたい。」「自分たちの説明書を読んで、おもちゃを作ってもらいたい。」という児童が多くいた。また、「1年生だから、漢字が分からないから使わない。」「ふりがなを振ってあげよう。」と相手意識をもっておもちゃの作り方の説明書を書くことができた。

二つ目は、時間を表す言葉を意識しながら文章を読む力を身につけられるようにした。まず、「読むこと」の学習で、〈作り方〉の手順が書かれた文章をバラバラに並べ替えたワークシートを用意し、時間を表す言葉に着目しながら並べ替えを行った。児童は、「まず」「次に」「そして」に着目しながら文章を並べ替えることで、時間を表す言葉を意識しながら文章を読むことができた。

三つ目は、友達と書いた説明書を読み合い、実際に作り文章表現で分かりにくい部分を修正したり、良い部分を自分の文章に取り入れたりできるようにした。活動をする時のルールとして、「友達が困っていても口頭で説明しない」と設定した。そうすることで、「作れない＝分かりにくい」ということがはっきりし、どこを修正すればよいか明確になった。

## 10 評価の実際

### B評価



紙とんぼの作り方  
 これから、紙とストローをつかった、紙とんぼの作り方をせつ明します。  
 (ざいりようとどうぐ)  
 ・ストロー 一つ(すきないる)  
 ・ホッチキス  
 ・あつがみ一まい  
 ・はさみ  
 (作り方)  
 ①まず、ストローにすこしきりこみをいれます。  
 ※ちゅうい  
 のびるストローは、のびるところを切つてつかう。  
 ②つぎに、あつがみを、⑩ますの長さで二まい切ります。  
 ③そして、ストローのきりこみを入れたところに、あつがみを二まい合わせてはさみます。  
 ④さいごに、ストローにはさんだあつがみをストローの外がわからホッチキスでとめます。  
 これで紙とんぼのかんせいです。  
 (楽しみ方)  
 紙とんぼの紙のところに色画用紙でかざりつけをしてもいいですね。

- ①「まず」、「つぎに」、「そして」、「さいごに」と順序を表す言葉を用いて文章を書くことができています。
- ②絵の中にも、「ちゅうい」や「あわせていれる」などの但し書きを入れ、文と絵が対応するように、絵の中に「①」と対応する番号を入れている。
- ③「1年生にも分かるように」と漢字にふりがなをふり、相手意識をもって文章を書くことができています。

27人中、Bと評価した児童は、19名であった。クラスの7割の児童が、順序を表す言葉を用いておもちゃの作り方の説明書を書くことができた。また、作業手順については、文字だけでなく絵を描いたり、写真を撮って載せたりする工夫もできていた。

## 12 成果と課題

### 成果

「1年生に紹介する」という目標を立てることで、「1年生でも分かる文章とは？」と考えることができた。児童から「漢字が分からないから、ふりがなを書こう」や「絵にも説明を書こう」などの声が聞かれ、相手意識をもって文章を書くことができた。また、内容のまとめりごとに文章を書くことや、時間を表す言葉を用いておもちゃの作り方の説明書を書くことができた。

### 課題

今回、児童が自分の書いた説明書を友達に読んでもらい、分かりにくい部分は書き直すという作業を行った。自分で文章を書くことができないC評価の児童は、友達や教師から文章を考えてもらいながら、説明書を書いた。友達や教師に教えてもらうことで、おもちゃの説明書はできても、児童の力にはなっていない。そのような児童には、友達や教師に考えてもらうのではなく、説明文で使えそうな様々な語彙を提示し、「どの言葉が使えそうか？」など、選んで自分の文章で使うことができるようにすればよかったと考える。

また、本学級の児童は、語彙の少なさから自分の書きたい文章が書けないのではないかと考えた。語彙を増やすために、宿題などで「言葉あつめ」（例：「直」がついた熟語をさがす）を行い、語彙の量を増やせるようにする。また、国語の学習と関連のある本を教室に置くことで、日常的に読書に親しめる環境を作り、語彙の量を増やせるようにする。